

Firewallaモード

Firewallaは、デバイスとメインルータの間に設置することで、ネットワークを通過するすべてのトラフィックの監視および制御できます。

Firewalla がネットワークトラフィックを監視するためのモードは接続構成に応じて4つ用意されています。

ブリッジモードでの接続を推奨しています。シンプルモードとDHCPモードのサポートは終了する可能性があります。また、ブリッジモード以外で接続する場合、当該端末機器が電気通信事業法に基づく技術基準に適合しているかの確認が必要となる場合があります。

- **ブリッジモード（推奨）**：Firewalla を使用して2つのネットワークを透過的にブリッジします。
- シンプルモード：プラグアンドプレイモード、配線を変更する必要はありません
- DHCPモード：プラグアンドプレイモード、ルータのDHCP機能を無効化して利用します。
- ルーターモード：メインルータとしてFirewallaを使用します。

1.ブリッジモード（推奨）

Firewallaをルーターとアクセスポイント/スイッチの間に配置して、ネットワークトラフィックをインラインで監視、制御します。Firewallaはファイアウォール/IPS/IDSとして機能します。このモードでは互換性の問題はありません。

長所

既存のルーターとスイッチ(またはアクセスポイント)間の物理的なインラインに設置し、既存のネットワーク構成を維持したまま導入が可能です。

短所

「ルート」、「スマートキュー」、「VPNクライアント」などの機能は利用できません。

2.シンプルモード

ARPプロトコル(arpスプーフィング)の動作を使用して、接続されたデバイスからFirewalla端末にトラフィックを仮想的にルーティングします。ARPプロトコルのサポート方法はルータごとに異なるため、このモードはすべてのルータと互換性があるわけではありません。

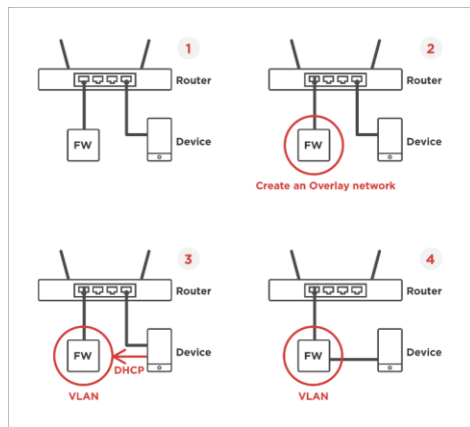
長所

再配線や設定は不要であるため、インストールが簡単です。Firewallaに問題が発生した場合でも、ネットワークへの影響はありません。

短所

すべてのルータとの互換性はありません。特定の状況、ネットワークの構成では、パケットがFirewallaを通過しない場合があります。

3.DHCP モード



DHCPモードでは、Firewallは既存のネットワーク上に別のネットワークを作成します。したがって、メインルーターにネットワークがある場合は、Firewallからのオーバーレイネットワークも表示されます。

このオーバーレイネットワークはFirewallによって作成され、ホームネットワークの物理層の上に静的にオーバーレイされます。

デバイスをこのオーバーレイネットワークに静的にポイントするか、メインルーターの既存のDHCPサービスを無効/変更して、FirewallにDHCP要求を処理させることができます。

FirewallアプリでFirewallのオーバーレイネットワークを確認するには、[ボックス設定]⇒[詳細設定]⇒[ネットワーク設定]⇒[オーバーレイネットワーク]をタップします。

注: Gold PlusとPurple SEでは、別のオーバーレイネットワークは作成されません。元のネットワークと同じサブネットを使用するため、ネットワークを変更しないようにDHCPに使用されるIP範囲を構成する必要はありません。

長所

すべてのトラフィックはファイアウォールを通過させることができます。

短所

ルーターにログインしてDHCPサーバーを無効にする必要があります。

4.ルーターモード

インラインでルーター/ファイアウォール/IPS/IDSの機能を利用することができます。ルータモードで使用する場合、当該端末機器が電気通信事業法に基づく技術基準に適合しているかの確認が必要となる場合があります。

長所

LANネットワークとWANネットワーク間の物理的インラインで動作します。ルーティングとセキュリティ機能はFirewallによって処理され、Wi-FiルーターはWi-Fiのみにリソースを割くことができます。

短所

モデム+ルーター+アクセスポイントとしてデバイスが1つしかない場合は、機能しません。

このモードでは、FirewallがモデムとWi-Fiアクセスポイントなどの2つのネットワーク要素の間に配置されている必要があります。